

524

508

花井宮御流筆字系譜



始





御流筆之系譜

大正
15. 12. 16
寄贈

藤原素朝氏贈本

造物在在



題

桃井之宮御流華道教坊

正位 卯濱部



有為之教

信教益

序

梶井宮御流活華は京都大原なる三千院梶井御門跡に傳はり、其の流祖は第三十七世の法主眞智法親王にまします、初は單に御家元古流と稱せしも、同流を傳へたる門派分れて各々一家を成し、源氏流、池の坊、遠州流等呼ばるゝに至りしかば、當流中興第六祖慈胤法親王の門人松雨軒慈溪師の時、始めて梶井宮慈溪御流と稱し、尙その門人に青山流を生じたりと傳ふ、左れば我が國活華の流派多しと雖も、其の最古きものは當流なること雲上示正鑑に記す所の如し、今慈溪の文字を省きて單に梶井宮御流と稱するは、明治四十一年同御門跡の指達に依るものなりと云ふ。慈溪師は各宮方御近習の侍にして、華道を關東に擴め、門流相傳へて第十八世現家元山岸素朝翁に至れり、翁先代の後を受けて技術を研究し子弟の薰陶を力め、又廣く各流華道の向上と親善を計り東京華道諸流の聯合會（現東京華道協和會）の設立に盡力し、その會長に撰まれ、又屢宮内省或は外務省の命を受けて外國貴賓の御前に活花の技を供覽せしことあ

り。翁性質温厚篤實、人格高く、善く人の爲に力を盡す、又花技以外に俳諧、書道、謠曲等を好みて其の奥を究め、家業の側力を公共事業の、特に教育の方面に致せるもの多し。

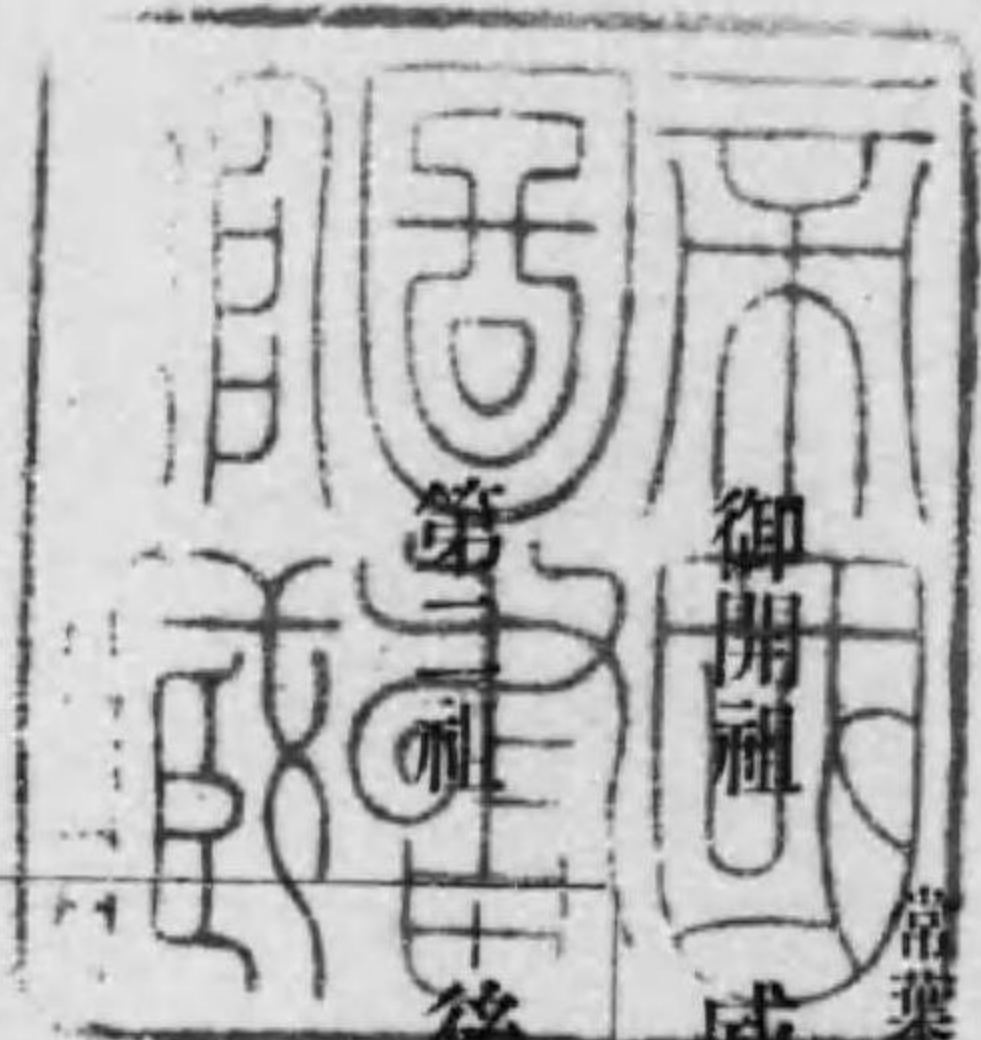
余東京經濟雜誌社に在りて大日本人名辭書の編纂に當りし頃、初めて翁に面して當流の出自を聞き、之を該辭書に掲げたるが、爾來交友三十年情誼渝ることなし、翁大正十二年神田に住して大震火災に遇ひ、其の家を焼き傳來の書類什器の半を亡ひ、流門の系譜を記せる版木をも烏有に歸せしかば、今年更に内容を改め稍々記事を詳密にし、爰に上梓して門人に示すの料となす、余に其の序文を求めらるゝに依り、聊か記して翁の常に斯道に忠實なるを讃仰すと云爾。

大正十五年仲夏

森 無 黄

梶井宮御流立花活華御家元系譜

(1)



常葉井御所第三十七世天臺座主堯胤親王御附弟

御開祖 威徳王院一品眞智法親王

號慈月園

後菩提院二品彦胤法親王

源氏流挿花之祖

御直門 珠慶坊慈岳 京都相國寺塔之檀毘沙門堂執行ナリ

足利第八世慈照院征夷大將軍義政公ノ同朋

專阿彌慈垂

相州深澤ノ産ナリ
世ニ專慈ト云是ナリ

梶井宮御配下六角堂池坊第廿六代目

春陽坊專順法眼 專阿彌門弟ナリ是ヨリ代々專ノ字ヲ用ユ

池坊ニテ花道ノ開祖タリ

第三祖

大雄院二品應胤法親王

第四祖

圓妙院二品最胤法親王

第五祖

實性院二品承快法親王

中興第六祖

常修院二品慈胤入道親王

號松翁館
茶道ノ御名譽

威徳王院宮ヨリ常常修院宮マテハ御家元古流ト稱シ給ヘリ

常修院慈胤親王御墓制札

宮内省

大正六年十月

右令禁止者也

一、竹木等ヲ伐ル事

一、魚鳥等ヲ捕ル事

一、猥ラニ周圍内ニ立入ル事

梶井宮墓

御直門 遠州流插花之祖

孤蓬庵 宗甫 初メ淺野左門介政一ト稱ス後從五位下遠江守ニ任シ小堀新介正次ノ養子トナルコノ宮ヨリ慈溪ニ賜リタル梶井宮御流立華活華古傳ノ御令旨現ニ總家元一松齋ノ家ニ秘藏ス元祿十二年十二月十二日薨去御齡八十一京都魚山ノ淨域ニ葬ル

梶井宮慈溪御流之祖

一 實院慈溪御方

號松雨軒 淺井左兵衛佐宣政ト云

實ハ本門第十三世光從法主ノ御季兒尙鷹君ナリ

第七祖

同二世東都淺草御坊二薦職

一 蓮空坊慈訣慧俊法橋

泉龍寺ト號ス

御流常葉ノ卷并ニ常修院宮御實印等ヲ以テ以來家元相承ノ證據トナスト知ヘシ元祿八年梅花傳ノ一書ヲ著ス貞享元年初メテ淺草本願寺御堂ニ毎年七月七日當流ノ生華ヲ獻供ス此時ヨリ當流ニテハ淺草本願寺御簾ノ間ニ獻花スル例トナレリ

第八祖

同關東目代職

一 松月園 慈舟

淺井玄蕃允政崇ト云

實ハ後西院帝嬪宮益子内親王御附植村主殿ノ實兄ナリ同惣管領職

一 園正二位權大納言基勝卿

號松涼園 雨亭

此三輩ヲ慈溪御流華術獨歩ノ三傑ト稱ス

基勝卿ノ男

一 園止二位前權大納言基香卿

號松樹園 雨聽

青山御流活花之祖

一 園正二位權大納言基衡卿

號青山亭又 一雨亭

以上大略詳細ハ御園傳常葉滴瓶ノ如シ雲上示正鑑ニ據ル

第九祖 松谷庵慈空

寶永元年四月許 慈溪御流ト稱ス

第十祖 遊松庵南枝

享保八年許

第十一祖 對當庵慈詮

延享四年正月許

第十二祖 岩井忠恕

寶曆四年正月許

第十三祖 月休庵了覺

寶曆十一年十一月許

第十四祖 梅軒雪朝

明和三年二月許

第十五祖 慈松軒清雅

寛政九年二月許

第十六祖 榮松軒素行

寛政十二年許

第十七祖 一松齋素翁法眼

文政七年正月許

天保年間江戸府内ニテ諸流聯合ノ花道會設立ヲ發起シ創設セリ 東京華道協和會ノ前身ナリ 明治三年五月維新戦死者ノ忠魂ヲ東京九段坂上招魂社ニ合祀同月十五、十六、十七ノ三日間大祭ヲ行ハセラレ 天皇親拜アリ此時兵部省ヨリ東京華道協和會一松齋素翁ニ内命アリ一松齋ヨリ各流ヨリ活華ヲ献スベキ旨ヲ協議シ三日間ニ涉リ諸流合計四百十四瓶ヲ奉献セリ明治維新トナリテ御用献華ハ是ヲ以テ矯矢トス

文久三年三月十八日東京兩國萬八樓ニ於テ梶井宮常修院二品慈胤法親王
御遠忌追福ノ活花會ヲ修行セリ

大日本華道四明會會頭

第十八祖 一松齋藤原素朝

明治四十年九月京都三千院御門跡門主大僧正梅谷孝成猊下ヨリ免許ヲ
得テ總家元トナリ、明治四十一年九月梶井宮御流ト改稱ノ命ヲ達セラ
ル

(御沙汰書寫)

梶井宮

慈溪御流

右自今單ニ

梶井宮御流ト稱セシメ候此旨ヲ瞭知シ彌々華道ノ蘊奧ヲ發

揮シ其擴充ニ奮勵可被成候也

明治四十一年九月八日

梶井三千院門跡

一、明治二十三年上野公園ニ於テ内國勸業博覽會ヲ開カル、ニ當リ 明治天皇行幸アリ
素朝(當時一旭齋素生ト號ス)師一月齋素秋及ヒ社中一同ト美術館ニ活華ヲ陳列シ
テ天覽ニ供シ金十六菊御紋章附扇面一對ヲ下賜セラル

一、明治二十三年五月廿五日東都柳橋萬八樓ニ於テ當流教授初世一旭齋素生(現今一松
齋素朝)一松齋素朝室教授一庭齋素泉ノ披露活華會ヲ開催シタリ社中ハ元ヨリ東京
華道協和會々員全部各地方ヨリモ出席セリ

一、明治二十八年日清戰役終局ニ際シ神田區出身ノ陸海軍人死亡者ノ英靈ヲ弔フ爲祭式
ヲ西小川學校ニ修行シ閑院宮殿下ノ臨場アリ當御流活華ヲ獻納陳列シテ瀏覽ニ供ス
又當日ノ接待委員長ヲ囑托セラル

- 一、明治二十八年十二月一松齋素朝感スル所アリテ海外留學生ノ爲ニ汎ク内外ノ書籍ヲ供給スル主旨ニテ神田區通神保町ニ東京市書籍組合ノ協賛ヲ得テ書肆崇文館ヲ開設セリ館名ハ當時東京師範學校長狩野治五郎氏ノ命名スル所ナリ
- 一、明治三十四年八月廿一日新潟縣知事柏田盛文氏ノ招請ニヨリ東京市教育會ヲ代表シ東京市小川小學校校長岸田松二郎氏ヲ隨ヘ新潟市政開始紀念展覽會開催ニ際シ新潟市開會ノ同縣教育大會ニ參列シ續テ山形縣福島縣栃木縣ニ於ケル師範學校及ビ教育狀況ヲ視察シ同年九月二日歸京ス
- 一、明治三十五年五月東京府市合同教育展覽會ヲ上野公園地ニ開設シ 照憲皇太后ノ行啓アリ當御流ノ活華ヲ陳列シ展覽會ノ委員トシテ特ニ拜謁ヲ賜ル
- 一、明治三十七年五月十五日淺草區松葉町九十四番地浄土宗榮廣山貞源寺ニ當流華道教場ヲ開設セリ
- 一、明治四十一年九月大日本華道四明會ヲ組織シ當流ノ華技ヲ修ムルモノヲ糾合シ本邦特技タル華道ノ進歩ト當流ノ統一ヲ計ルコト、シ選ハレテ會頭トナリ又四十四年三

- 月當流教授職練習會ヲ組織シ華技ヲ教授セント欲スルモノヲ以テ會員トシ毎月二回技術ノ實習研究ヲ行フノ機關トシ役員ヲ置キテ事務ヲ分掌セシム
- 一、明治四十二年五月十八日「活華千代廼松」三卷ヲ訂正増補發行セリ
 - 一、明治四十二年六月淺草松葉町浄土宗貞源寺ニ於テ當流華佛第一回ノ法要ヲ修行セリ
 - 一、東都淺草東本願寺御坊ニテハ古來ヨリ七月七日七夕ノ活華會ヲ催サレ當流ハ古來ヨリ同坊ト由縁深ク明治六年七月七日七夕活華會ノ意ニテ献華セリ故ニ當流ニ限リ本堂簾ノ間ニ献華他ハ悉ク他ノ席上ニ陳列ス東京華道協和會々員各自出席献華セリ
- 東京市淺草門跡東本願寺
- 當御流活華ヲ献納スル紀元ハ
- 知門良純大王寛永六年乙四月十五日
- 東照神君ノ靈ヘ小供ノ入道蛇籠ノ器ニ數々ノ花ヲ挿シテ奉ルニ始リ其後貞享元
甲子年七月七日「世ニ七夕ノ御花」ト稱シ當御流ニテハ御本堂簾ノ間ヘ活華ヲ
献ス又他流ヘモ申入アリ云々

百二瓶ヲ奉獻ス明治維新ノ際迄ハ年毎ニ執行ス其砌天臺三山日光山 比叡山 東叡山管領職座主
二品久遠壽宮現下七十八ノ御老齡ヲ以テ俄ニ御遊覽ノ趣仰出サレ御供ノ直參衆
大西宮内卿法印萬里小路法眼ヲ隨ヘサセラレ第七祖一實院慈溪ノ活華ヲ御覽遊
ハサレテ和歌二首ヲ賜ハル

和歌 (二首)

茂れなをかしく君のをしへとも

見へてすくなる常葉木のさま

みとりなる色もかわらて行すへの

千ひろにしけれ一もとの松

一、明治四十二年十一月東都東本願寺宗廟六百五十回忌法要ニ際シ一週日ニ亘リ當流ノ
活華ヲ奉納セリ陳別ノ花席ハ皇族ノ間御門主ノ間同裏方ノ間知事市長名譽職ノ間來
賓ノ間白書院黒書院等ナリシ日夜繁忙ヲ極メタリシモ無事終了淺草本願寺御坊所ヨ
リ厚キ謝意ヲ表セラル

一、明治四十三年清國ヨリ大使載貝振子ノ來朝ニ際シ一松齋素朝宮内省ノ命ニヨリ細川
流盆石家元代理板倉子爵ノ母堂板倉梅溪池坊東京出張所長石田正翁遠州流本多梅齋
ヲ引具シ芝離宮ニ參向シ活華及ビ盆石ノ技ヲ臺覽ニ供シ、式部官伊藤博邦氏ノ通譯
ニテ説明言上セリ

一、明治四十三年五月印度パロダ國王及王妃玉女ノ來朝アリ一松齋素朝宮内省ノ命ヲ受
ケ御旅館帝國ホテル特設ノ御席ニ於テ當流活華ノ技ヲ一覽ニ供シ、式部官稻葉正繩
氏ノ通譯ニテ應答申上ケ御誼ニヨリ「千代の松」及ビ花器ヲ献上ス宮内省ヨリ御下
賜金アリタリ

一、明治四十四年米國カリフォルニア州ロスアンゼルスノ醫學博士ハッチンソン氏門
人一芳齋素夢ヨリ「千代の松」一部ヲ贈呈シ同博士ヨリ東洋獨特ノ技術ナリトテ推
奨ノ書狀ヲ贈ラル

一、明治四十三年十月十一日山梨縣甲斐國南都留郡谷村町眞宗大谷派向嶽山專念寺ニ當
流教場ヲ開設シ同月二十五日披露ノ華會ヲ開會、翌四十四年一月十四日同縣同郡禾

生付本派本願寺派川應山淨專寺ニ教場ヲ設置シタリ

- 一、明治四十四年大日本華道會發行「いけはな」誌上ニテ募集ニ係ル京濱在住花道宗匠十傑ノ投票ニ最高點ヲ以テ當選シ同十月二十八日當選狀ニ添エテ大日本華道會ヨリ古銅耳付壺形花器ヲ贈ラル

- 一、明治四十五年二月五日發行精密撰拔大日本花道名匠一覽ニハ一松齋素朝ヲ東ノ方大關ニ登載セラル

- 一、大正元年九月二日 明治天皇御大喪參列ノ爲各國皇族御來朝、西班牙皇帝陛下御名代ボルボン親王殿下ハ芝離宮ニ御宿泊アリ、宮内省ヨリ一松齋素朝ニ御旅館ノ活花ノ飾付ヲ命セラル續テ一松齋素朝門生一章齋山岸素瓊、一玉齋寺本素鏗、一姿齋原素芳、一抱齋高崎素璞ヲ引具シ參向シ西班牙國皇帝陛下御名代皇族ドン、アルフォソ、デ、オルレアン、イ、ボルボン親王殿下ノ御前ニ於テ西班牙國大使館參事官ジールデンガード閣下、宮中顧問官正五位勳三等山口三吉閣下、陸軍中將從四位勳二等功三級村田惇閣下、海軍少將正五位勳三等功四級山屋他人閣下、式部官正五位伯爵

- 一、明治四十五年神田區内小學校教員ノ活花講習會ヲ開キ每週一回門下ノ高弟ヲ率キテ之ニ臨席シ斯道ノ練習教授ヲ行ヒ大正二年十二月同會ヨリ感謝狀及記念品銀製梶ノ葉御紋章付茶器ヲ贈ラル
- 龜井茲常閣下、西國公使館武官陸軍少佐ヘレラドラ、ロザ閣下、同公使館一等書記官伯爵アルガサル閣下、皇族殿下御附武官陸軍中尉モレノ閣下、露國大使館三等書記官佐藤尙武閣下御列座ニテ常流古式ニヨル活華ノ技ヲ臺覽ニ供シ接待員陸軍中將村田惇閣下伯爵龜井茲常閣下ノ通譯ニテ一時間餘ニ亘リ御説明申上ケ尙「千代の松」數卷ヲ献上ス

(感謝狀寫)

梶井宮御流華道總家元第十八世大日本華道四明會々頭一松齋藤原素朝先生ハ夙

ニ御流ノ一般民間ニ普及センコトニ志ヲ寄セラレ我皇室ニ最モ關係深キイニシヘノ道ヲ中興セラル、コト吾等ノ感佩措カサル所ナリ而シテ先生ハ區内小學校教育篤志家ナルノ故ヲ以テ特ニ多大ノ私資ヲ投シ每週一回宛開催セル神田區小學

校教員活花會ノ爲ニ盡サル、事爰ニ三年ニ及ヒヌ我等幸ニシテ同會員タルノ榮
ヲ荷ヒ毎回先生ハシメ各師範ノ懇切ナル指導ヲ受ケソノ門ニ臨ミソノ要ヲウカ
ガヒ其流ヲクミ其趣味ヲ解スルコトヲ得タリ欣喜何カタトヘンコレヨリモ更ニ
進テ御流ノ發展ニ盡サンコトヲ期セント欲ス、茲ニ本講習ノ終了ニノソミ記念
トシテ銀製茶器ヲ呈シ吾等滿腔ノ敬意ヲ表ス

大正貳年十二月十三日

神田區小學校教員活華講習會

一、大正二年四月發行大日本華道家大番附ニハ一松齋素朝ヲ花道家後見役ノ位置ニ掲載
セラル

一、大正三年九月二十一日梶井三千院第五十三世御門跡御門主無量慈心院天臺座主探題
大僧正孝成法印大和尚御葬儀御執行ニ際シ當流ヨリ献香料ヲ献上シ大正七年六月東
京上野天臺宗東叡山寛永寺ニ於テ御法要ヲ修行セリ

一、大正五年四月三日長野市善光寺別當所大勸進ニ同地方ニ於ケル諸流插花奉納ニ際シ

(16)

大勸進住職僧正石堂晃純師ヨリ招請セラレ幹事隨伴出張明治九年 明治天皇東北御
巡行ノ途次行在所ニアテラレタル由緒アル記念ノ席ニ出陳献華セリ

一、大正六年十二月六日東都ニ於テ往昔江戸時代天保十四年ノ創立ニ係リ八十四年ヲ閱
スル最古ノ由緒アル華會東京華道協和會ノ會長ニ選舉セラレ現ニ其ノ任ニ在リ

一、大正七年六月東京上野天臺宗東叡山寛永寺ニ於テ當流々祖慈胤法親王御代々ノ宮方
先師一松齋素翁法眼其他全國教授以上ノ華佛ニ對シ大法要ヲ修行シタリ

一、大正八年四月一日東京市神田區表神保町南明俱樂部ニ於テ當流師範教授齋號者披露
ノ生花大會ヲ開催シ各地方門葉會員等出席セリ

一、大正十一年七月二十七日ヨリ同年八月二日ニ至ル七日間京都大原梶井三千院門跡假
宸殿ニ於テ 明治天皇御十周年聖忌御懺法講ヲ奉修セラル、御懺法講ハ維新前ハ宮
中ニ於テ行ハセラレタル佛教典儀ノ最モ重キモノニテ御所ニテノ砌用キサセラレタ
ル張思恭筆釋迦文珠普賢ノ三尊ヲ奉掲シ參勤公卿ハ正三位子爵大宮以季卿正四位子
爵豐岡圭資卿ニテ三千院門跡梅谷孝永大僧正導師トナリ

(17)

實皎僧正、實田大僧都、孝忍大僧都、慈舜大僧都、慈鑑大僧都、中海大僧都、成演大僧都、智了權大僧都、惠弘小僧都、道忍小僧都參勤奉仕ニテイト莊嚴ナル御儀典ナリシ、當御流家元一松齋素朝ハ門弟ヲ隨伴シテ各門跡主ト列座參拜献香ス

(表彰狀寫)

當宮御流

總家元 一松齋 山岸 素朝

本年

明治天皇尊儀御十周年聖忌御懺法講奉修ニ付

淨資ヲ寄セラシテ

皇奉佛ノ誠意感銘ノ至リニ勝ス

茲ニ之ヲ表彰ス

大正十一年八月三日

梶井三千院門跡

大僧正 第五十六世 梅谷 孝永

一、大正十四年三月十八日富流師範臺灣總會頭一喬齋平川素嶺(法名知新南海道珠居士)

ノ特別法要ヲ東京巢鴨祥雲山瑞真院善光寺ニ於テ執行セリ

二、大正十四年十月七日支那關稅會議ニ參列スル米國代表サイラス、ハーデー、ストロ

ーン氏同夫人令嬢、國務省亞細亞局書記官バーキンス氏夫妻渡支ノ途次來朝外務大

臣官邸ニ於テ歡迎會ヲ開催セラル、ニ際シ外務大臣ノ命ニヨリ幹事ヲ隨伴シ同官邸

ニ於テ當流活華ヲ出陳シ觀覽ニ供シタリ

一、大正十四年十月十七日東京ニ於テ極東熱帶醫學大會ヲ開カレ世界ノ碩學三百餘名來

朝アリ會議ノ最終ノ日慰勞ノ園遊會ヲ外務大臣邸ニ開催セラル、ニ際シ外務大臣ノ

命ニヨリ幹事ヲ隨伴シ同會場ニ當流活華ヲ出陳シ觀覽ニ供シタリ

一、大正十五年五月二十三日下谷區中根岸町總家元教場相生莊ニ於テ師範教授以下社中

ノ花號披露生花會ヲ開催ス東京華道協和會會員諸氏參列セリ

一、米國エール大學教頭ラッド博士ニ就キ心理學ヲ專攻セリ、外國ノ門人ニハ英國人東京府立第二中學校國民英學會東洋大學中學校教授ボックスマウム氏夫人及ビ令嬢ツデー氏等アリ

一、明治二十三年四月八日神田女學校開校式ヲ舉ゲラル、ニ當リ別席ニ當流ノ活華ヲ陳列セリ

一、明治二十三年九月二十八日（舊曆十五夜）一松齋素朝ノ發起ニテ俳諧第三世最中堂秋耳宗匠立机披露會ヲ淺草區代地鷗遊館ニ開會シ併セテ之カ祝意ヲ表スル爲諸流ノ花道家ヲ招請シテ活華大會ヲ開催セリ

一、明治二十四年八月十五日俳士秀草家秀松翁ノ法要并ニ建碑ノ式ヲ千葉縣東葛飾郡行徳町德願寺ニ執行サレ席上詩文和歌俳諧繪畫活華等ノ催アリ東京華道協和會各宗匠及地方有志ヨリ獻華アリ當流ヨリハ家元各門業ヨリ獻華セリ

一、明治二十七年四月三日神田小川女學校開校式ニ際シ當流ヨリ各種活華ヲ陳列シ抹茶式ヲ行ヒ古文書類貴重品ヲ出陳ス

一、明治二十八年五月日清戰役終局ヲ告クルニ當リ神田區出征軍人ノ姓名ヲ官幣大社神田神社ヘ古式ニヨリテ奉額シ其祭典ヲ執行セラレタレバ一松齋素朝ノ提議ニヨリ神田區居住ノ有志ニテ同式場ニ諸流活華ヲ獻備セリ

一、明治三十三年八月十五日俳士第三世最中堂秋耳翁ノ壽碑ヲ本所區須崎町百花園内ニ建設シ其披露會ヲ同園別席ニ開催シ東京華道協和會同好ノ士ヨリ獻華ス書畫謠曲園遊會ノ催アリシ

一、明治三十五年四月三日東京府市聯合教育會ノ主催ニテ上野公園ニ教育展覽會ヲ開キ皇后陛下ノ行啓ヲ仰キタリ一松齋素朝ハ幕府時代各種ノ教育書活華ニ關スル書籍外參考書ヲ一章齋山岸素瓊ハ自作ノ白エブロン等ヲ出品セリ畏クモ一章齋ノ出品ガ陛下ノ御思召ニヨリ御用品ヲ仰付ケラル、ノ光榮ヲ荷ヘリ同會宗理前司法大臣岡部長職同上前貴族院議員江原素六氏ヨリ感謝狀ヲ贈ラル

一、明治三十五年十一月東京市教育會附屬女子技藝學校開校式場ニ當流活華ヲ出陳ス

一、明治四十二年十月東京市淺草區北清島町世雄山威王院開成就寺ニ於テ宗祖第六百五

十回忌法要執行ニ際シ當流活華ヲ獻備セリ

一、明法四十三年四月長野縣下高井郡中野町柳南閣並ニ同所法運寺ニ於テ故法眼一松齋素翁一洋齋素濤ノ壽碑建設披露會開催ニ當リ催主ノ招待ニヨリ一松齋素朝門葉ヲ引具シ獻華ス

一、明治四十五年八月六日千葉縣東葛飾郡行徳町日蓮宗原木山妙行寺ニ於テ安政三年八月六日同地方大海嘯横死者ノ大法要ヲ營マル、ニ當リ當流同地方ノ門葉ニヨリ活華ヲ獻備セリ

一、大正二年二月十八日當教場ニ於テ一松齋素翁第三十三回忌一月齋素秋第十三回忌ノ法筵ヲ開ク

佛や水の上なる彼岸の日

第四世 最中堂旭生

一、大正五年四月三十日當教場建築落成ノ爲教場開ノ披露會ヲ開催セリ

一、大正五年十月讀賣新聞社ノ主催ニテ上野公園不忍池畔ニ婦人博覽會開催セラル、同月廿一日、廿二日、廿三日ノ三日間東京華道協和會會員全部出席特設ノ華席ニ陳列

(22)

シタリ

一、大正十三年六月小石川陸軍廢兵院ニ大日本婦人會總裁伏見宮周子殿下成ラセラル、ニ當リ御便殿へ當流ノ活華ヲ獻備セリ

一、以上ハ主トシテ斯道ニ於ケル公事ニ關スル事項ノ摘要ヲ採録シタルモノニシテ公人トシテ府市ノ政界ニ馳驅シタル、教育衛生及ビ社會事業ニ執掌シタル、商工業ノ經營等ニ關スル閱歷并ニ私事ニ涉ル事項ハ總テ省略セリ

一 松齋素朝斯道調査ノ爲各地巡歴概要

一、明治二十三年來斯道ノ傍公共事業ニ執掌シ教育風俗商工業ノ調査視察ノ爲各地ヲ遍歴シ斯道向上ノ上ニ裨益スル所尠ナカラズ

一、明治四十三年八月十日東京出發東北各地ニ於ケル教育視察ヲ兼ネテ花道ニ關スル調査ノ爲福島、山形、秋田、弘前、青森ノ各市ニ於ケル師範學校及ヒ女學校ヲ巡視シ北海道室蘭ニ上陸旭川、札幌、小樽、函館ヲ經テ歸途長野縣ニ立寄暫ク滞在セリ

(23)

一、大正七年四月京都ヲ經テ奈良ニ到リ滯留數日ソレヨリ高市郡高市村聖德太子生誕地岡本宮ヲ拜シ、天臺宗橋寺ニ參詣住職辻岡良盛氏ニ面晤シ太子尊像開帳ノ上太子ニ關スル寶物ヲ拜閱シ有益ナル史實ヲ聞キ河内國眞言宗科長山寂福寺ニ參詣太子ノ墓所ヲ拜シ同寺住職杉本孝順氏ニツキ史實ヲ調査シ大阪ヨリ汽船ニテ德島ニ渡リ丸龜ニ滯在同地方ニ於ケル華道ノ現況ヲ視源平古戰場ヲ弔ヒ眞言宗矢島寺ニ詣テ岡山市ニ轉シ奈良伊勢名古屋ヲ經テ歸京セリ

一、大正八年八月播州姫路教場（教場主任小森三枝）山口縣山口町鰐石教場（教場主任一南齋國枝月輝）ヲ經テ長州萩町ニ到リ小郡驛ヨリ下ノ關ニ直行滯在數日ニシテ對岸門司ニ渡リ九州巡歴ノ途ニツク、小倉、久留米、熊本ニ於ケル斯道ヲ視察シテ鹿兒島ニ入り同縣教育會ヲ訪ヒ日向霧島溫泉ニ滯在天ノ逆鋒霧島神社ニ參拜ノ後熊本市ニ着シ夫ヨリ安蘇山ニ登リ同所溫泉ニ滯留數日轉シテ三角港ニ出テ天草教場視察ノ上島原、長崎、佐世保、伊萬里、有田、佐賀ノ各地ニ於ケル斯道ノ現狀ヲ探究シ久留米ニ滯在商工業ノ實況ヲモ視察ス、カクテ博多福岡ヲ經テ大分市ニ到リ續テ別

府溫泉ニ逗留國東郡教場ノ調査ヲ了ヘ汽船紫丸ニ搭乘大阪ニ歸ル同市ノ視察ヲ了シテ淡路島由良港ヲ見京都市ニ歸着所用ヲ辨シテ名古屋半田龜崎ノ諸港ヲ巡視シ豊橋ヲ經テ歸京ス

一、大正十一年十月八日長野縣ニ於ケル當御流師範者建碑除幕式ニ招請セラレ、舉式參列ヲ了シ、夫ヨリ新潟縣佐渡國ニ渡リ順德天皇眞野ノ御陵ヲ參拜シ御陵掛長榮藏氏ニ親シク面謁シ史蹟ヲ聽取探究シ其他名所舊跡ヲ訪ヒタリ、其他京都ニテハ上下加茂社、横ノ尾、梅ノ尾、愛宕山、高雄山、鞍馬山、紀州高野山、雲州大社、近江四明嶽、嚴島神社、金刀比羅、筑前太宰府、天之橋立、甲州身延山、象頭山、秩父山、野州日光山、加賀白山、駿河富士山、上總鹿野山、陸前松島、常陸ノ筑波山、近江竹生島、北海道各地ノ名所舊蹟ヲ探リ大山高嶽ニ登リテ英氣ヲ養ヒ各地ノ教育狀態商工業華道ノ現況ヲ視察スルコト枚舉ニ遑アラズ、其ノ都度視察狀況調査書旅行記紀行詩歌俳句感想記等殆堆積スルモノアリ他日一卷ノ書トシテ出版スルノ機アラン

學俳號

最中堂旭生

喫茶稱

松蔭庵松影

樂畫日

梢涼館王鳳

謠 寶生流

梶井宮御流華道總家元

常葉井御所華務職 聖德記念學會員

第十八世 一松齋 藤原素朝



大正十五年十一月十日印刷
大正十五年十一月十五日發行

發行者兼

山 岸 豐 壽 郎

東京市下谷區中根岸町十二番地

印刷者

大 日 本 華 道 會
平 元 良 作

東京府下花原郡大井町一七四二番地

梶井宮御流華道總家元
常葉井御所華務職

一 松 齋 教 場

東京市下谷區中根岸十二番地
舊輪王寺宮御領御下屋敷
電話 下谷 二七三三番

大日本華道四明會事務所

東京府品川町二十四番地
電話 高輪 七七八七番
振替 東京 二五四八番

發行所

24
508

○題首筆者説明

細川潤次郎氏は樞密顧問官文事秘書官長前華族女學校長にして文學博士男爵なり
飛田信敬氏は梨本宮門跡の坊官なり
森無黄氏は三溪と號し深く歴史國語學に通曉し又俳人として俳誌初冠の主幹なり

○正誤表

誤

正

頁	各宮方	梶井門跡
無黄序	「コノ宮」トアルハ	中興第六祖常修院二品 慈胤入道親王ヨリ賜リ タルコトナリ
四	狩野治五郎	加納治五郎
一〇	小供ノ入道	小俣入道作

終